

## 神戸市立葺合高等学校 SELHi等を経た自校の強み-弱みを分析した上での34の評価指標（兵庫県）

## 実施体制の概要

- 全校生徒数：約1071名  
(うちSGH対象生徒数 240名を対象とする)
- SGH対象学科：  
国際科（2クラス×3年）を中心とする
- HP：[http://www2.kobe-c.ed.jp/fki-hs/index.php?page\\_id=0](http://www2.kobe-c.ed.jp/fki-hs/index.php?page_id=0)  
(SGHの取組はこちら：  
[http://www2.kobe-c.ed.jp/fki-hs/?page\\_id=435](http://www2.kobe-c.ed.jp/fki-hs/?page_id=435))
- SGH委託費用総額：約4,548万円  
(H26 約1300、H27以降 680万円～1000万円/年)
- 校内の体制：5名の構想委員会に学年主任・国際科の  
教員を追加したSGH推進委員会（18名）が中核組織  
指定4年度目からはポストSGH検討委員会を構築  
学びを深めたい生徒のためにGSS研究会も併設
- 国内連携機関：大阪大学、関西学院大学、  
WHO神戸センター、NPO等と連携
- 連絡先  
✉tak-chamoto@sch.ed.city.kobe.jp  
☎078-291-0771

## 何を目指したか

- 本校生徒の強みである語学力、プレゼン力を伸ばしつつ論理的思考力等の弱みも補強された‘共生への扉を開く’グローバルリーダーの育成

## ツールのポイント

- 1 強みと弱みを最初に分析、育てたい16の力を基に34の評価指標を設定
- 2 毎年t検定で有意な変化がないかを確認し、この結果も踏まえながら  
ビジョンに向かって指導プログラムや教材に改訂を重ねる

SGH事業実施に  
必要だった資源

■ ①本校卒業生の大学院生による事務スタッフ（1名）、②神戸市英語科元教諭の海外交流アドバイザー（1名）、③ALT（7名）の3種の人員を追加配置（①②はSGH予算）



■ SGH予算は、海外研修に約半分、上記の人件費を活用



■ 業務効率化に挑戦しているが、特に立ち上げの1年目は、一部の教員に労働時間で見ると負荷がかかっている



■ やりがいはあるが、負担が教員間に偏在しており、通常の授業に加え、SGHの日々の課題探究、成果発表会など忙殺される部分もある

## Plan

## ツール作成の背景

- SGH指定前より、国際交流（姉妹校9校）を盛んに行う高校で、SELHi等の文科省事業の指定を受けてきた経験があり、指定事業を行う際には、最初の目標設定が重要になるとの認識
- この認識のもと、在校生の能力だけでなく卒業生30名へのアンケート、インタビューにより本校の強み、弱みに関するデータを収集し、構想委員会を中心に育てたい人物像を議論
- この結果、16の力を設定し、生徒、保護者にもわかりやすく共有し、この16の力の伸びを測る評価指標を策定

## SGH事業計画の流れ



※GS:Global Studiesの省略で本校の課題探究の根幹

## Do

## ツールの解説

## ✓ 34の評価指標

取組概要  
成果

- 育てたい16の力を生徒の応えやすい評価指標34に細分化し、毎年度の取組の終了時期に自己評価をさせ検定での分析を行った
- 新聞の記事を見る、などの日常行動に関する設問から、主張と協調性のバランスがとれる能力、他者の痛みを理解・共感し、サポートする力まで、設定されている
- 3年間SGHのプログラムを受けた1期生～3期生を比較すると、後になるにつれ、34の評価指標の得点の伸びが高い
- GSを受けた生徒の能力の伸びを受け、34の指標に改良を重ねる方向で検討中

## ✓ GS II B, II Cの教材

- 課題探究の中心的な学年である2年の授業のオリジナル教材で、年間計画、ルーブリック評価まで全て英語で簡潔に要約
- GS II Bでは英語での課題探究のスキルを習得し論文発表に至るべく、教材を開発。今回は、質的調査と量的調査の違いなどを英語で解説する資料もある
- GS II Cでは、地歴公民科と英語科の教科横断学習としており教材を開発。今回は“the Role and Impact of Fashion on the Teenagers of Japan and India”のテーマで実施した授業の流れの資料もある

## Check

## 取組内容の評価

- 34の評価指標も使いながらSGH推進委員会や国際科の教員で授業の評価、日々のプログラムの改良を行っている
- 5年目の取組時にも、最初に設定した育てたい力に立ち戻り、取組に磨きをかけられた
- 評価をすることで、論理的思考力を身につけ、自らの課題を解決しようとする主体性が確立してきたことが明白になった

## Action

## 指定期間終了後のいま

- 基本的に継続しており、多くの取組をWWLに継承している
- WWLは国際科だけでなく、全生徒を対象とすること、また本校のみならず、国内外の他校と協働してアドバンストレーニングのネットワークを形成するなど新たな挑戦がある